

記念論集刊行にあたって

このたび2005年3月をもちまして、山本岩夫法学部教授が定年退職をお迎えになることとなりました。ご退職を記念いたしましてここに「立命館法学」別冊として記念論集を刊行することができましたことは、執筆をはじめといたしまして、法学会全会員の喜びとするところであります。

山本教授は1970年4月に立命館大学法学部に助教授として赴任され、以来35年のながきにわたって研究・教育に従事してこられました。山本教授の研究分野におけるご専門は、主に北米地域における日系文学・文化の研究であります。20世紀の複雑な日米関係という歴史的背景の中で、みずからのアイデンティティを模索してきた日系人の文学・文化活動に光を当て、まさにそれを発掘し、紹介・研究されてきた業績は極めて価値の高いものといえるでありません。これまで注目を浴びてこなかった日系アメリカ文学の紹介は、篠田佐多江氏との共編で、全22巻に及びます『日系アメリカ文学雑誌集成』に結実しております。山本教授は、1991年には日本移民学会の発足にご尽力され、現在では会長を務められながら学会活動をリードしておられます。

教育の分野におきまして、山本教授は法学部での英語科目、英語副専攻科目、展開外国語科目などを担当してこられました。この35年というもの、大学教育そのものもさることながら、わが法学部外国語教育においても大きな変革を幾度となく経験してきた時期でありました。英語母語話者教員による授業の導入、それに伴うチームティーチング、速読・多読授業の展開、英語副専攻制度の開設など、大きな改革に際して法学部外国語担当教員は教科・教材の研究会を行ないながら集団として奮闘してきましたが、山本教授は常にその先頭に立って頑張っておら

れました。こうした教科研究の詳細を「法学部英語副専攻実践報告」その他の論文・実践報告にまとめられていることは、後に続く者にとりまして貴重な参考資料となるものであります。温厚なお人柄と熱気みなぎる授業によって、山本教授は多くの学生に慕われてこられました。そのことは、退職記念講義にたくさんの卒業生が駆けつけてくれたことから私たちがうかがい知ることができました。

学内行政の面におきましても、法学部外国語関係の役職は言うに及ばず、二部学生主事、外国語教育連絡協議会委員長、外国語教育センター長、などを歴任され、全学的な外国語教育の議論を常にリードしていただく存在でした。

山本教授は常日頃から様々な問題に対してしっかり議論を尽くすことの重要性を指摘され、みずからも実践されていました。これまで言動でお示しいただいた教えを私たちは大切にしていきたいと思えます。最後になりましたが、山本教授におかれましては益々ご健勝で、これまで以上に研究の面でもご活躍下さいますことを心よりお祈り申し上げます。

2005年3月20日

立命館大学法学部長・法学会会長 吉村 良一